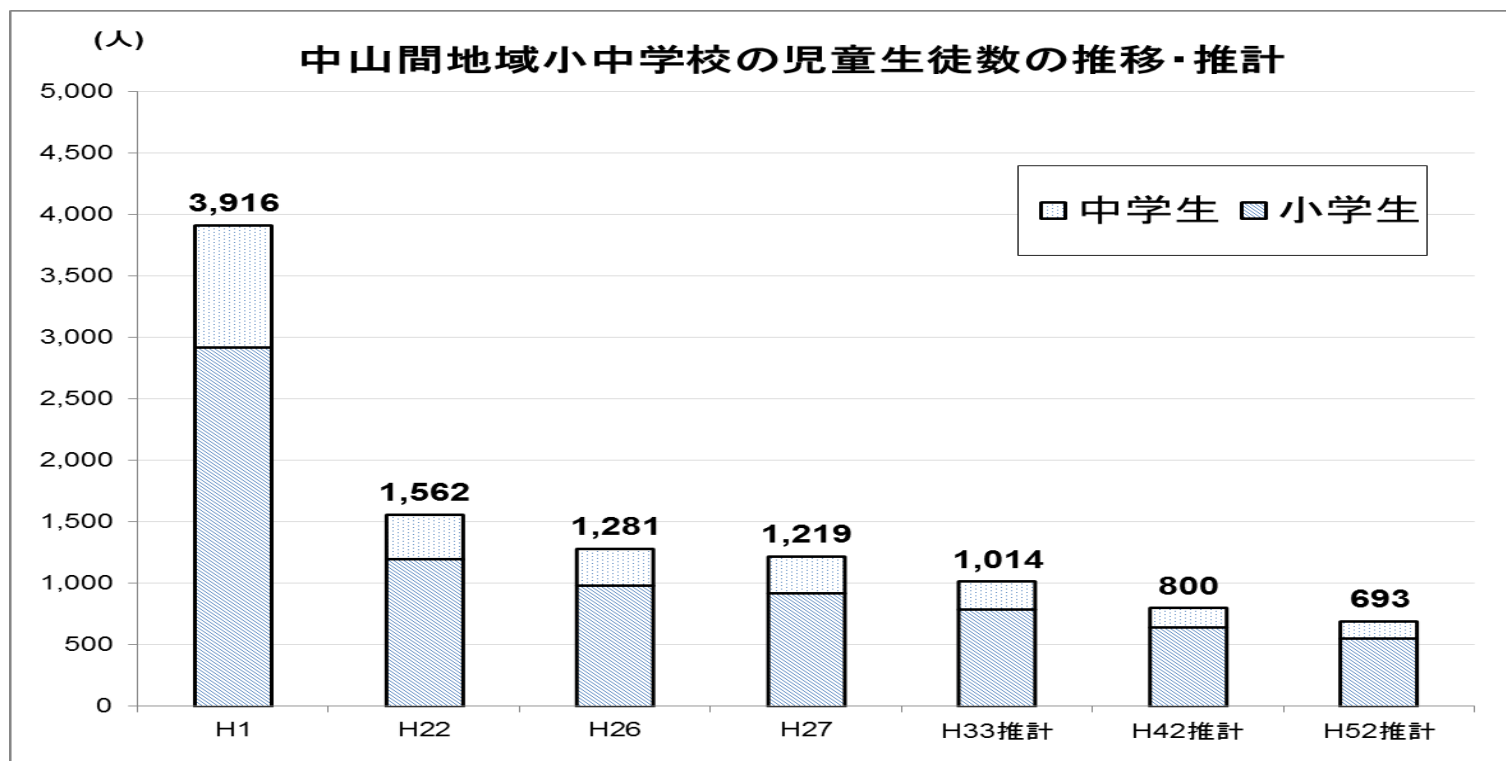


小中一貫教育の検討の方向性について

- ①市全体で小中一貫教育に取り組む
⇒資料3「小中一貫教育方針素案」
- ②市全体での導入の検討とは別に、学級数が1となる中山間地の中学校は、施設一体型の小中一貫校への移行など、速やかな対応が必要である。
- ③特に、井川小・中学校については、平成28年度に中学校の学級数が1となるため、平成28年4月1日からの施設一体型の小中一貫校への移行が必要である。

中山間地の小・中学校について

中山間地の学校では、市街地の学校よりも児童・生徒（小学生・中学生）数の減少が著しい。



ここでいう中山間地域の学校とは、H24の答申示されている、小学校21校、中学校8校のこと。

【小学校】井川、大川、梅ヶ島、大河内、玉川、北沼上、賤機中、賤機北、松野、服織西、南藁科、中藁科、水見色、峰山、清沢、清水小島、清水小河内、清水和田島、清水穴原、清水中河内、清水西河内

【中学校】井川、大川、梅ヶ島、大河内、玉川、藁科、清水小島、清水両河内

井川小・中学校について

教員は、その学級数に応じて配置される。

井川小・中学校は、平成28年度に中学校の学級数が1になると推測されており、中学主要5教科の教員の配置が困難となる。

そこで、施設一体型の小中一貫校に移行し、

①校長が一人となる分を授業を教えることのできる教諭の配置

②小・中両方の免許を持つ教諭の配置

などにより、教育の質の維持を図る必要がある。

児童・生徒予想数とそれに伴う標準学級数・職員配置予定数一覧

井川小学校・中学校

	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
小1	複式 以下同じ	0	0	1	0	0	2
小2		3	0	0	1	0	0
小3		3	3	0	0	1	0
小4		2	3	3	0	0	1
小5	1	1	2	3	3	0	0
小6	0	1	1	2	3	3	0
児童数	10	10	9	9	7	4	3
標準学級数	3	3	2	2	2	1	1
校長	1	1	1	1	1	1	1
教頭	0	0	0	0	0	0	0
教諭	4	4	2	2	2	1	1

中1	1	0	1	1	2	3	3
中2	1	1	0	1	1	2	3
中3	1	1	1	0	1	1	2
生徒数	3	2	2	2	4	6	8
標準学級数	2	1	1	1	2	2	2
校長	1	1	1	1	1	1	1
教頭	1	1	1	1	1	1	1
教諭	4	1	1	1	4	4	4

小学校＋中学校 教職員数計

	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
校長	2	2	2	2	2	2	2
教頭	1	1	1	1	1	1	1
教諭	8	5	3	3	6	5	5
計	11	8	6	6	9	8	8